

ベントスデータの検品承ります

やまだかずゆき

kaz_y-miaw@nifty.com

<http://miaw.o.oo7.jp/>

海域ベントスの調査スキルやノウハウを持っていない業者が、ずいぶんたくさん参入しているようです。公共事業が大幅に縮小されたことが起因していると思われませんが、陸水の事業を手掛けていた業者が大幅なディスカウントで海域のベントス業務に着手しているケースを見かけることがあります。

元請けが直近のデータに合わせることを好む、という長年続いた方針から、こういった業者のデータが信頼に足るものかチェックできなくなっています。おそらく元請けにも必要なスキルやノウハウがないのでしょう（なぜ入札資格を認められるのか不思議です）。

アセス業務という趣旨からいっても、あるいは三陸復興ですとか、水産資源の現況調査ですとか、ほかのさまざまな業務の観点からいっても、過去データに合わせて本来の出現種をことごとく排除したり、出現していない種名を流用したり、といったデータは分類学的にも統計学的にもまったく信用できません。

第三者機関なりが厳しくチェックする体制が必要だと思うのですが、アセスは施工主が施工主の費用で発注するというスタンスになっており、そのため受注者は発注者におもねる、いわゆる“アワサメント”の温床にもなってしまうわけです。

でもまちがいなく、こうしたデータをもとに開発事業を進めれば、その海域の生態系は少しずつ破壊され、やがて見る影もなくなるでしょう。漁獲対象となるものは著しく減少し、やがて一切捕れなくなるでしょう。子供たちが遊ぶことのできる浜辺は、汚染され、悪臭を放つようになるかもしれません。在来種がほとんど姿を消した東京湾のようなケースを、これ以上なぞってはいけません。

まずは手近なところから、チェックをしましょう。

次に既存の認識を改める必要があります。今何が生息しているか明確にし、その調査手法による誤差を推測し、母集団を推定しましょう。科学的な調査に則って環境評価を行いましょう。

ベントスサンプルは、開けてみないと何が入っているかわかりません。1検体いくらの単価体系ではお受けできないと考えています。かかった時間を人件費で請求いたしますので、やまだの請求金額は元データに要した費用より高額になると思われまます。

安易に単価を抑えることで何を犠牲にしたか、それを考えるきっかけにしてください。